

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価					
よく考え、工夫する子ども 人やものにやさしい子ども 進んで取り組み、やりぬく子ども	笑顔あふれる 中塩田の子	・子どもたちは音楽会・運動会など大きな行事に前向きに取り組め、やり遂げた達成感を得ることができた。また、仲よし学級などの異年齢との交流が十分に行え、高学年は低学年に優しく接する姿が見られた。交流活動は、2学期に各学年で実施でき、園児さんや地域の方々と触れ合うことができた。一方で、学年による差も大きく、課題が残る結果となった。評価が下がった「楽しくけじめのある学校生活」に関しては、地域・家庭と連携して、具体的な手立てを考え、取り組んでいきたい。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	① よく聴いて、自分の考えを書ける子(振り返り・ノート)	全校集会での聴く姿勢が、よくなった。自分の考えを書くことについては、個人差が広がってしまった。			○		振り返りの時間を確保できる授業計画を立てる。ノートをチェックして、評価・励ましをしていく。
	② 自分から挨拶し、相手を大切にできる子(温かい言葉・思いやり)	教師から進んで挨拶をしたところ、3学期になり積極的に挨拶をするようになってきた。			○		挨拶をするとともに一声そえることで、挨拶する事に喜びを感じられるようにしていく。
③ 活動や作業に一人でもこつこつ取り組む子。(黙々活動)	係活動や無言清掃に取り組んでいる児童が増え、定着してきた。係活動なども進んでできた。		○			こつこつと取り組めた時に、認める言葉がけをする。自発的な活動になるよう、促していきたい。	

領域	対象	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
重点目標	①	わかりやすい板書	「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置付け、一時間の授業の流れが分かる板書を心がけているか。	どの子にもおいても、見やすく、写しやすく、整理された板書を心がけた。さらに簡潔で、わかりやすい板書になるよう工夫していく。		○		学習問題は四角で囲み、分かりやすく書くよう心がける。大事なところ、まとめをきちんと板書し、分かりやすく提示する。
		振り返りの時間の確保	1時間で学べた内容や学び方を振り返る時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	時間の確保はできたが、自分で文章化できる児童が少なく、言語化することに課題が見られた(低学年)。定着問題に時間をかけたので、時間確保が難しかった(高学年)。			○	振り返りの時間がとれるよう、授業展開を工夫し、振り返りの時間確保を教師も意識していく。
		家庭学習の充実	家庭学習の手びきをもとに、家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	自主学習が定着しつつあるが、学年での差も見受けられる。内容や質によってコメントを書いている。家庭学習について、保護者と連携することで定着する児童も		○		自主学習では、お手本となる児童を紹介し、やり方や内容の質を上げていく。「つむぐ」を活用し、さらに家庭との連携を深める。
	②	楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切に、児童会と連携して安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	姿勢が思わしくない児童がやや多いので、その都度声がけをしているが、改善されにくい。あいさつや休み時間の廊下歩行に、課題が見られる。			○	学年集会で、学年の目指す姿を目標に掲げ、学年全体で取り組んでいく。姿勢については、具体的な改善策に取り組んでいく。
		異年齢の友だちとの活動	共遊、ペア読書などの異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	仲よし給食、ペア読書などができた。高学年は、ペア学級の児童を楽しませよう・喜ばせようという意識の強い児童が多い。6年生は1年生に対する思いやりが随所で見られた。	○			児童会活動の一環として、ペア活動を継続していく。決められた活動以外でもペアの学習を取り入れていく。
		交流活動の充実	地域の方々や園児・福祉施設の方々との交流活動を児童が楽しんで関わり合えるよう取り組んだか。	学年で幼稚園との交流会を行うことができた。回数を重ねて、思いのこもった交流会にすることができた。しかし、学年によって、取り組みの差が大きかった。			○	各学年で機会を見て訪問し、交流を深めていく。塩田中央保育園の年長さんとの交流を、引き続き行っていきたい。
	③	よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	児童によって個人差があるが、全体的には話を聴く姿勢が育ってきた。自ら気づいて行動するのは、今一歩である。			○	教師が話す言葉を容易に端的にする。気づいて行動できた児童を認め、広めていく。
		体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳びを取り上げ、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	無理なくマラソン月間に取り組めた。マラソン大会に向けてマラソンカードや学年練習をしながら、意欲的に取り組むことができた。			○	授業開始時に行うマラソンやサーキット運動を続けていく。縄跳びを続けることで技能と体力の向上を図る。
		仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花作り等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	静かに清掃を行うことができた。雑巾がけも基本的なことができるようになってきた。仕事に対して、力を注げる児童が増えてきた。		○		できていることやがんばっていることを認め、さらに仕事に対する意識の醸成を図る。
		学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	読み聞かせやチャレンジタイム、放課後学習など、地域の皆様のおかげで充実した学習ができた。チャレンジタイムは、個別の指導に対応でき、大変ありがた		○		今までの活動を継続しつつ、さらに連携をして充実した学習ができるように連携をすすめていく。
学校運営	学習指導	授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境・言語を整えることができたか。	実物投影機を使い大型テレビに映し出すなど、視覚支援に心がけた。「視覚支援」「言葉は端的に」を意識して、授業に臨むことができた。	○			発問や指示を明確にする。情報を絞って分かりやすくする。コース別学習が有効なので、算数だけでなく国語でも取り組めると効果的である。
	研修	職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にするために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	UD化や自主学習への取り組みの研究授業、生活科の公開授業など、とても勉強になった。互いの実践に学び、相談しながら授業改善をすることができた。			○	授業のUD(ユニバーサルデザイン)化をさらに推し進め、皆が分かりやすい授業作りを推進していく。授業実践の日常共有を大切にしていきたい。
	生徒指導	いじめへの対処	いじめを防止し、いじめが起きた際、適切に対処することができているか。	なかよしアンケート等を用いた相談を行うことができた。何か問題が起きた時は、すぐに対応・連絡・報告ができるよう意識してきた。		○		今後も全職員で児童の姿をよく見て、情報を素早くキャッチできるようにしていく。クラスや学年の実態を全校で共有し、防止のために共通理解をしていく。

### 教員自己評価2学期







